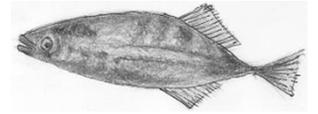


## くまがや市民ネット準備会通信



生活クラブ運動の立ち上げ支援を受けています。

2024年9月30日発行 第15号

## 熊谷学校給食センターに行ってきました！

熊谷市では新学校給食センターの整備が進められ、これから熊谷市のこどもたちにどんな給食が届けられるのかを考える大事な時期です。まず現在の給食センターではどのように給食が作られているのかを知るために、市内のこどもたち約11000食分の給食を作っている給食センターを訪問し、センター長、副センター長、栄養士さんに話を伺ってきました。調理室等には入れませんでしたが、暑い中で作業されている様子が外から見てとれました。私達からの質問に丁寧に返答をいただきましたので私のメモを元に以下にまとめます。

- ・野菜は市と登録を結ぶ業者から月ごとに見積もりをして購入
- ・肉や魚は熊谷市に支店や本店がある業者から仕入れている
- ・米、パン、めん、牛乳、味噌、しょうゆは学校給食会のものを使用
- ・その他の調味料は基本的に無添加のものを条件に選んでいる
- ・給食関係の調味料はそもそも無添加で作られているものが多い
- ・今年からセンターにJAが入るようになったため熊谷産の食材をもっと増やしたい
- ・教育総務課の給食担当とセンターとのやりとりは特にない
- ・国の基準は通知等が来るが熊谷市から給食に関して、地場産を何%にする、有機食品をどのくらい使用していく等といった目標や資料等の通知は来ない
- ・残渣については3コースそれぞれに1校をモデルとして残渣量を測定している
- ・学校によって教育方針の違い等もあり残渣量は異なるが、多くて30%残るものもある
- ・洋食は残らないが、魚やかたいもの、あさりやレバー等主に和食は残渣量が多くなっている
- ・センターに戻ってきた残渣は環境課がNPOと契約して堆肥にしている
- ・コロナ前は学校やPTAでの取り組みで保護者が見学や試食に来ることはあったが、定期的に保護者からの意見を聴くような機会はない

- ・食育について教育委員会から指標はなく、センターの栄養士や栄養教諭が給食だより作成や献立紹介をしたり、栄養や調理についての出張授業をしたりしている(バランス良く食べること、食事のマナー、栄養素、献立を考える等)
- ・アレルギーについては現在、汁物の卵除去のみの対応
- ・新給食センターについてはまだ具体的には決まっていないが意見は出している

○こどもたちにどんな給食を食べてもらいたいか栄養士さんの想い

- 安全でおいしい給食を食べてほしい！
- 残さず食べてほしい！食べることにもっと関心を持ってほしい！
- 食べ物の話をしてほしい！お手伝いをしてほしい！お腹がすいてご飯を食べてほしい！

栄養士さんのみなさんの想い。みなさんはどのように感じますか？『食』について大事なことはまさにこの部分ではないでしょうか。食べることや食材に関心がない、簡単に残す、調理の手伝いをするこどもたちもいない便利なインスタント食の増加、ずっとお菓子を食べていてお腹がすいてご飯を食べることがないこどもたち。そして大人も…。私達も給食を作っているみなさんと想いは同じです。日々、こどもたちのために奮闘されているセンターのみなさんのことを知ることができ、私達にできることは何かを改めて考えていきたいと思いました。(深作)



熊谷学校給食センターにて

## 熊谷では生ごみを堆肥にしています

ご存じでしたか？ 熊谷市には家庭の生ごみや学校給食の食べ残しを堆肥にして農家に使ってもらおう仕組みができています。堆肥にしているのはNPO法人「くまがや有機物循環センター」です。平成10年、生活クラブを始めとする消費者グループと畜産農家によって有機物循環研究会が発足しました。有機物未利用資源のリサイクルによって農村部と都市部の共存を図るのが目的です。当時、牛ふんは田んぼに撒かれていました。使われていなかった県の牛舎が堆肥化センターとして無償提供されました。堆肥化センターでは牛ふん、当時の建設省の河川敷の雑草、生ごみがシャベルカーで切り返され、攪拌されて堆肥化されました。この堆肥化には埼玉県の担当者も参加、農家に喜んで使ってもらえる堆肥づくりに協力してくれました。

ほどなく、生活クラブを始めとする消費者グループ、熊谷肉用組合、環境衛生課により、レインボーくまがやが設立されました。有機物未利用資源のリサイクル、有機農産物振興や流通改善計画、地域環境保全の啓発活動や普及の実施を目指すのが目的でした。

このようにして進められてきた未利用資源の有効利用でしたが、家庭から排出される生ごみは現在、万吉地区の有志が提供しているだけ。

どうしたことか、行政は政策を変えたようです。これまでの市民との協力関係はストップしました。潮が引くようでした。展望がまったく見えなくなりました。

いくつもの希望と計画は尻すぼみになりました。けれども、土台はできています。熊谷市は未利用資源の堆肥化に年間100万円の予算を組んでいます。堆肥化センターも稼働しています。

皆さん、堆肥化センターに行ってみませんか。くまがや市民ネット準備会のメンバーだけではなく、食と農と環境に関心をもっている方々にも声をかけて、皆で一緒に行きませんか。

(清水)



2010年に発行された子ども向け広報誌

## メンバー募集！！

くまがや市民ネットワーク準備会では、一緒に熊谷のことを考え市政にも提案していく仲間を募集しています。現在女性6人、男性2人のこぢんまりした会で、月1回集まって市政のあれこれを話し合っています。現在は給食や農業の話題が中心です。

今のところ全員生活クラブの組合員ですが、組合員であることが条件ではありません。熊谷市をもっとよくしようとする人であれば大歓迎です。以下の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。(東)